

北星学園大学における 遠隔教育のイメージ

金子大輔
2020.4.14
ver. 1.2



<https://cgw.hokusei.ac.jp/ipc/enkaku/>

大原則

- 遠隔授業（オンライン授業）でも面接授業でも，1単位の授業時間は45単位時間（2単位では90単位時間）は不変
- 15回授業を実施するとすれば，1回分は6単位時間（事前事後学習含め）となるように設計
- 遠隔授業には「面接授業に相当する教育効果」の担保が求められる

1回分の遠隔授業の例：10のケース

1. 資料配布（オンデマンド）
2. 講義動画配信（オンデマンド）
3. 講義動画配信＋個人作業（オンデマンド）
4. 講義動画配信＋グループワーク（オンデマンド）

↑ オンデマンド型

5. リアルタイム講義形式（講義のみ）
6. リアルタイム講義形式＋個人作業
7. リアルタイム講義形式＋グループワーク

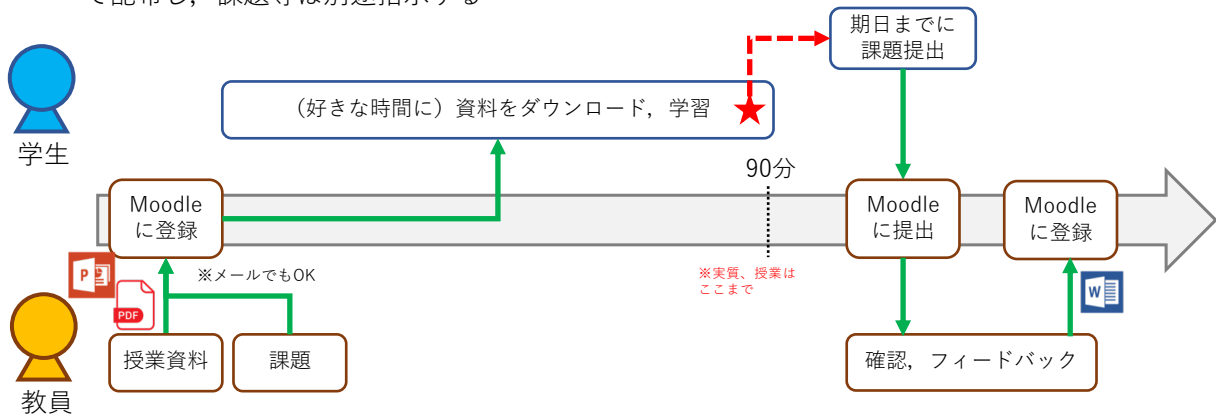
↑ 同時双方向型

演習→

8. リアルタイムの演習
9. グループワークがメインの演習
10. 非同期の演習

(ケース1) 資料配布（オンデマンド）

- ・ あらかじめ授業の資料（PDFやスライド）を作成してMoodleで配布し、課題等は別途指示する

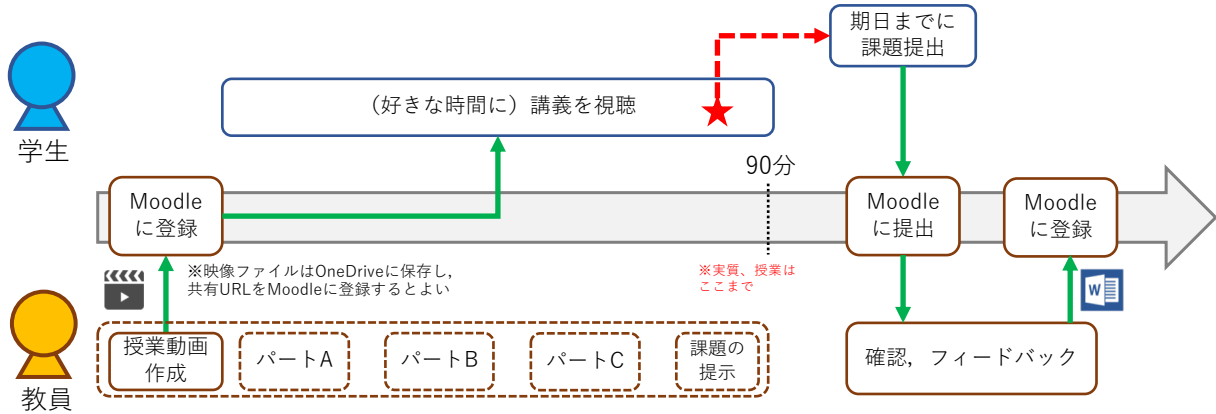


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 授業資料はMoodle上でHTMLで作成しても良い。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。
- ✓ 資料を印刷させたい場合は、プリンタのない学生のために、コンビニの「ネットワークプリント」サービスも活用する。
- ✓ フィードバックは個別に実施しなくても、ある程度まとめて実施してもよい。

(ケース2) 講義動画配信 (オンデマンド)

- あらかじめ授業の映像を録画してMoodleに登録し、オンデマンドで受講する

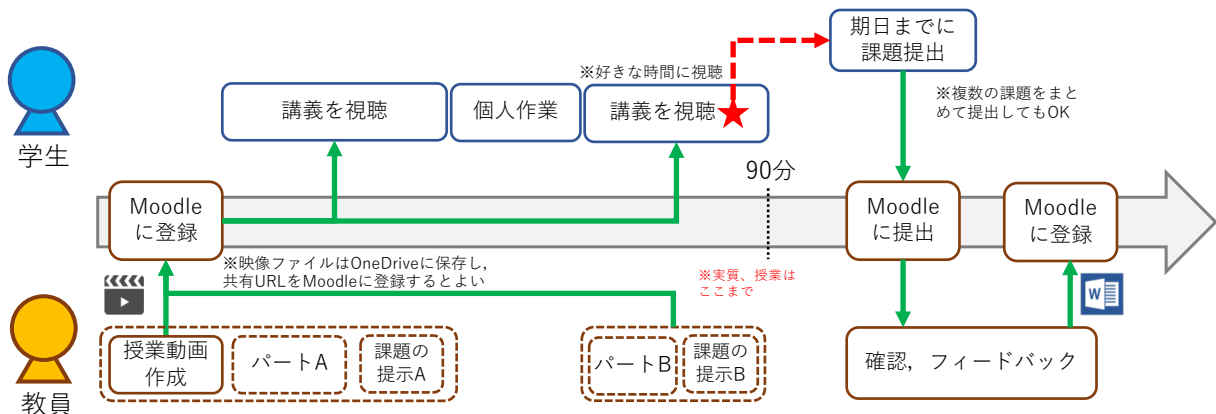


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 学生がバケ死 (バケットを使い過ぎて使用できなくなる) することを避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材にする。学生の集中力の観点からも、1つの動画や音声は短いもの (5分程度) が良い。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。
- ✓ フィードバックは個別に実施しなくても、ある程度まとめて実施してもよい。

(ケース3) 講義動画配信+個人作業 (オンデマンド)

- 授業の映像に加え、個人作業の時間を授業時間内に確保する

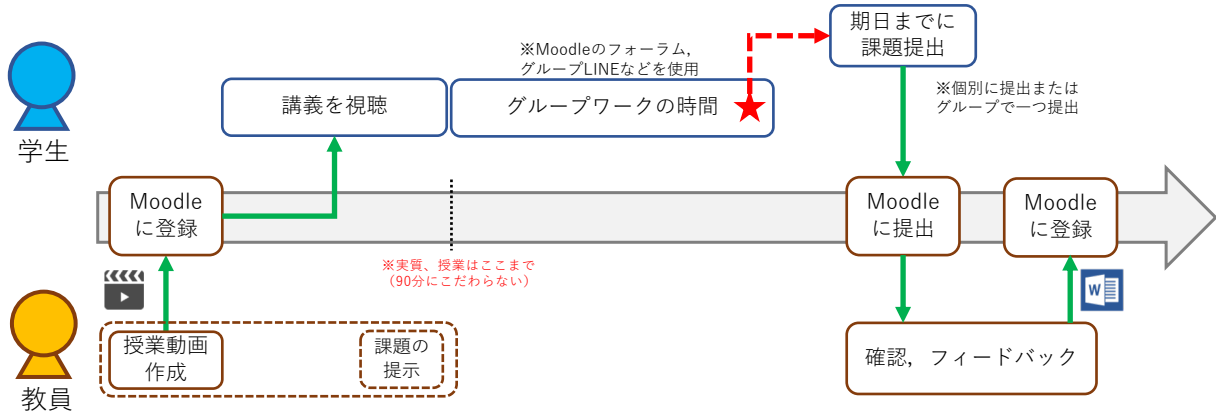


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 学生がバケ死 (バケットを使い過ぎて使用できなくなる) することを避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材にする。学生の集中力の観点からも、1つの動画や音声は短いもの (5分程度) が良い。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。個人作業を重視するため、ここを充実させるとよい。
- ✓ 個人作業を重視するため、できればフィードバックは個別に実施するとよい。

(ケース4) 講義動画配信+グループワーク (オンデマンド)

- 授業の映像を配信し、グループワークをした上で課題を提出する

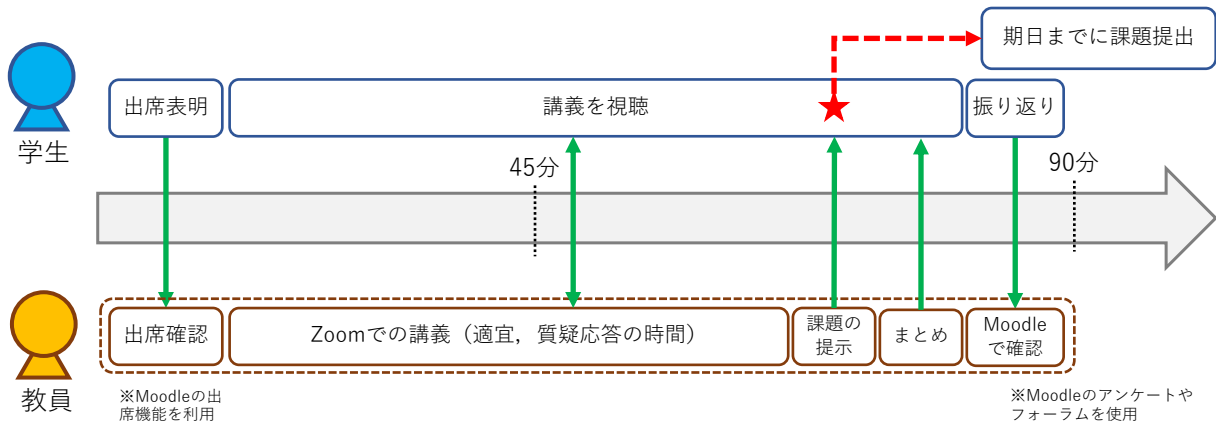


POINT

- ✓オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓学生がバケ死(バケットを使い過ぎて使用できなくなる)することを避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材や文字と静止画のみの教材にする。学生の集中力の観点からも、1つの動画や音声は短いもの(5分程度)が良い。
- ✓授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。グループワークを重視するため、グループで取り組ませることを充実させる。事前にグループが決めているような授業だとやりやすいが、ランダムに選んだグループでも可。

(ケース5) リアルタイム講義形式 (講義のみ)

- 授業の時間に映像をライブ配信する

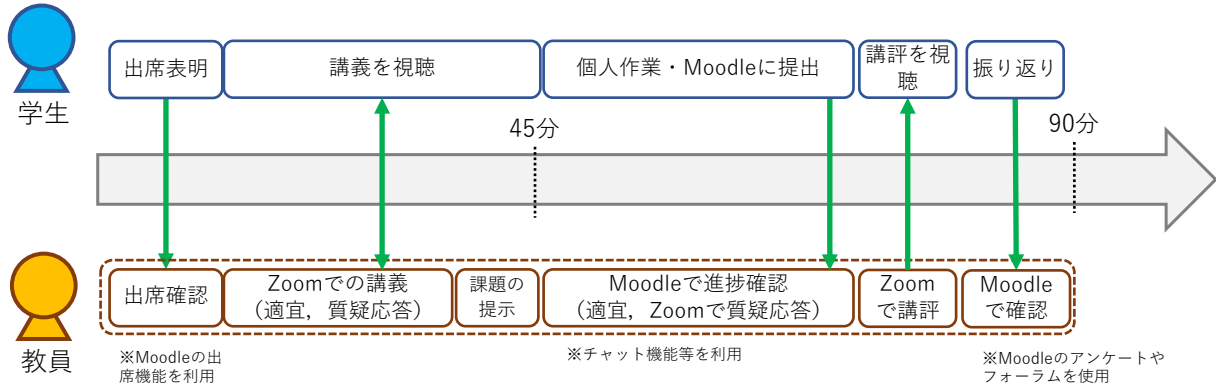


POINT

- ✓講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとかかりやすい
- ✓出席は、中規模クラスであればZoom上でも取ることは可能。大規模クラスはほぼ不可能なので、Moodleの出席機能を使ったり、振り返りの提出で出席とみなしたりなど工夫が必要
- ✓チャット等をうまく使って質疑応答し、内容を充実させるとともに、受講者を飽きさせないように工夫する
- ✓欠席者および復習用に、録画したライブ映像を公開する

(ケース6) リアルタイム講義形式+個人作業

- 授業の時間に映像をライブ配信し、授業中に個人作業を実施する

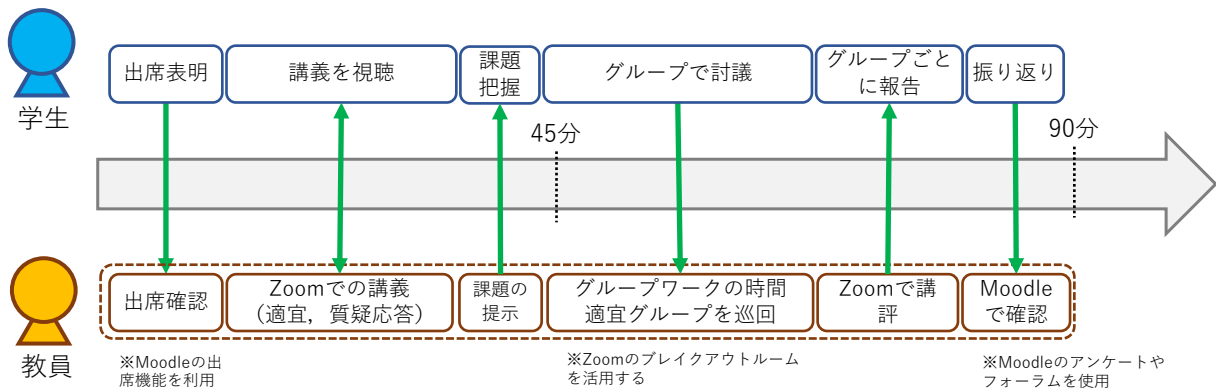


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとうかりやすい
- ✓ チャット等をうまく使って質疑応答し、内容を充実させるとともに、受講者を飽きさせないように工夫する
- ✓ 個人作業の時間はZoomを切断し、講評時に改めてつなぎ直すことも可能。ただし質疑応答に対応できるような工夫が必要。

(ケース7) リアルタイム講義形式+グループワーク

- 授業の時間に映像をライブ配信し、授業中にグループワークを実施する

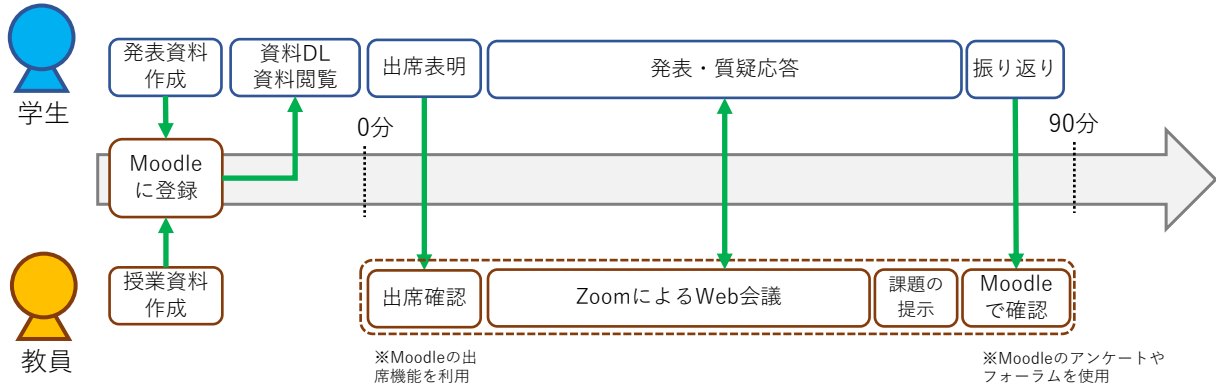


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとうかりやすい
- ✓ グループワークの成果を提出し、全員で共有すれば、提出物の確認を授業時間外にしないで済む
- ✓ Zoomのブレイクアウトルームは慣れるまで大変なので、何度か練習するとよい
- ✓ グループに分かれる前の指示は、できるだけ明確に具体的に行う。グループワーク時の「お見合い」を防ぐことができる

(ケース8) リアルタイムの演習

- ゼミなどでの発表や意見交換を、Web会議形式でリアルタイムに実施する

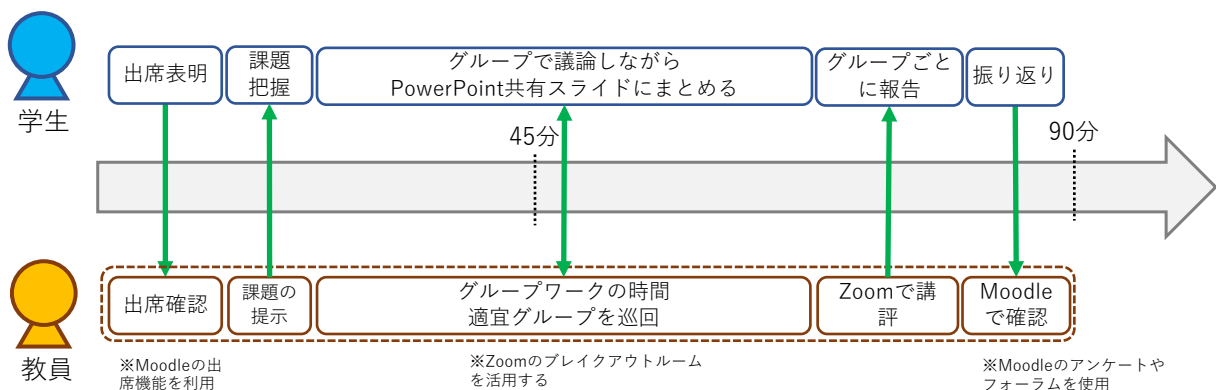


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓ Web会議形式のため、発言が自由にしにくかったり、進行が滞ったりすることがある
- ✓ 不必要に音声流れないようにするために、ミュートさせておき、発言の場面でミュート解除させるなどのルールを決める

(ケース9) グループワークがメインの演習

- ゼミなどでグループワークをリアルタイムに実施する

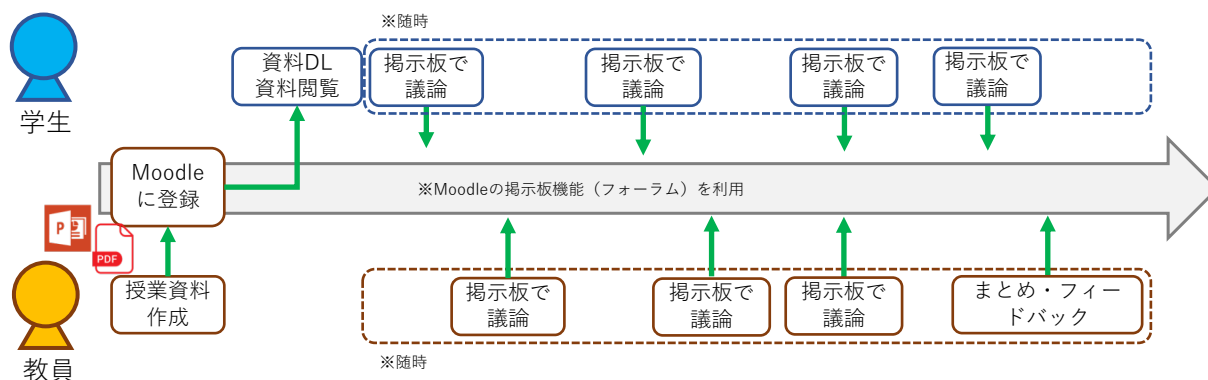


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓ Zoomのブレイクアウトルームは慣れるまで大変なので、何度か練習するとよい
- ✓ PowerPointのスライドを共有して同時に共同作業するのは便利だが、学生が慣れるまでは何度か練習するとよい
- ✓ グループに分かれる前の指示は、できるだけ明確に具体的に行う。グループワーク時の「お見合い」を防ぐことができる

(ケース10) 非同期の演習

- ・ゼミなどを掲示板を活用して非同期に実施する



POINT

- ✓非同期のため、学生の主体性や教師の主導性が求められる。それがないと授業が滞ることがある
- ✓講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓文字ベースでのやりとりになるので、議論の内容や方向性について工夫が必要

授業として成立するための条件

①同時双方向型

- ・授業形態
 - ・「同時」かつ「双方向」
- ・履修場所
 - ・教室，研究室またはこれらに準ずる場所（自宅もOK）
 - ・受講者のいる教室からの同時中継も有り
- ・面接授業に近い環境で行うことが必要
 - ・教員と学生が、映像・音声等によりお互いのやりとりを行う
 - ・教員に対する質問の機会を確保
- ・授業は必ず録画して残しておく
 - ・記録のため&欠席者・復習用に授業後公開するため

授業として成立するための条件

②オンデマンド型

- (a) 毎回の授業ごとに、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行う
 - ひとまとまりの授業資料が1回分と明確にわかるようにする
 - 教員または授業補助者による、対面またはオンラインでの学習支援
 - 課題のフィードバックや添削指導、質疑応答への対応など
 - 電子メール、ファックス、郵送、直接対面での指導もありうる
- (b) 学生等の意見の交換の機会を確保する
 - Moodleのフォーラム、Word共同編集の活用、Zoomで同時に実施
- 「同時」かつ「双方向」である必要はない
- 映像などの資料を見せて終わり→認められない
- 単に教科書を読ませて質疑応答→認められない

遠隔授業における試験の取り扱い

- 面接授業に代えて遠隔授業を行う場合にも、学生に対しては試験の上単位を与える
- ただしその方法は、一斉に実施する定期試験等に限らない
- レポートの活用による学習評価等、到達目標に応じた適切な成績評価手法を選択することができる
- その際シラバスを変更することは差し支えないが、学生に対する丁寧な説明に努めること
 - →評価方法について、シラバス等で学生に知らせる必要がある

令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)による

【参考】北星学園大学における「非対面授業」の種類

- a. 遠隔教育（オンライン教育）
 - 同時双方向型
 - オンデマンド型
- b. 授業中に課すものに相当する課題研究等
 - このうち、課題の配布や受け取りを対面で実施しないもの
- 遠隔教育と課題研究の違い（法令上）
 - 遠隔教育：多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱う授業（メディア授業）
 - 課題研究：それ以外（多様なメディアを高度に利用しない）

【参考】授業中に課すものに相当する課題研究等の例

- 指示の文書と課題を配布し、成果物を回収する形式
 - 例) 紙面や映像などで示された問題状況に対して、個人やグループで解決方法を企画・立案させ、レポートやプレゼンテーションを求める課題
 - →moodleを使って配布と回収は可能
- 実習科目
 - 例) 例示をもとに行うパフォーマンス課題
 - 例) 与えられた材料での作品制作
- 教員・学生の双方向のやり取りが乏しくなる危険性がある

【参考】授業全体の構成例：面接と遠隔

遠隔授業のみ特別な制限がかけられている

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
遠隔授業 (すべてオンライン授業)	遠隔授業															
遠隔授業 ※文科省Q&Aの掲載例 (「主として面接授業を実施した」と説明することは外形的には困難)	遠隔授業								対面	遠隔授業						
遠隔授業 (主として遠隔授業を実施したと判断されるもの、60単位上限)	対面	遠隔授業							対面	遠隔授業					対面	
面接授業 (主として面接授業を実施したと担当教員が判断)	対面	遠隔授業					対面	遠隔授業			対面					
面接授業 (これまで北星で認められていた方法、遠隔2回までなら対面授業とみなす)	対面授業				遠隔	対面授業				遠隔	対面					
面接授業 (すべて対面授業)	対面授業															

- 本文書は、下記のみなさまの作成した資料を参考にしています
- 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 坂本将暢先生
- 東北学院大学文学部 稲垣忠先生
- 専修大学情報科学研究所
- 西南学院大学

